

（業務報告案、業務計画案は印刷物を配布し、その他はスライドにて紹介）

1. 理事長挨拶

吉田理事長より、活性化と若手会員増への取組、また他学会との連携なども一層進んでいて、さらなる発展を望むことが述べられ、また、第24回学術年会については中村年会長に感謝の意が表された。

2. 報告事項（資料に沿って担当理事より報告された）。

1) 事務局報告（大槻）

会員動向会費納入状況およびバナー現状について報告された。会費納入はここ6年ほど年度末に85%を下回る状況であり、注意喚起を促したい由、述べられた。またバナーについて会員を中心に掲載への声掛けを一層努め、バナー数増加に向けて進めるが報告された。

2) 学術年会報告

(1) 第23回（@北九州）：大槻総務担当理事より報告された。市民公開講座の成功と、それに伴う助成などもあり、経費節減が適ったことが報告された。

(2) 第24回（@十和田）：中村理事（年会長）より挨拶があり、理事会直前の市民講座では香山前理事（自治医科大学客員教授）による「コメの安全と安心」と題した講演が行われ、受講者が熱心に聞かれていたこと、また4～5日の学術年会には多くの演題が応募されたこともあり、またSOT/ITSSとの協力プログラムなどもあるため、是非、楽しんで、そして活発な意見交換などをお願いしたい由、報告された。

(3) 第25回：総会後半に挨拶。

3) 第25回（@つくば）：野原理事（次期年会長）委員会報告

(1) 学術・編集委員会：野原理事（委員長）より以下が報告された。

① ニュースレター：新藤編集委員長によってニュースレターは計2号発刊され、編集委員長の努力により、出版社に委嘱せずに発刊することで、経費節減が適っている。

② 学会賞・奨励賞選考小委員会：次のプログラムに授賞式と受賞講演が行われるように、学会賞には藤巻前理事、奨励賞には山浦理事が選出された。

③ SOT/ITSSへのJSITからの投稿：ITSSの発刊するニュースレターの2016年の冬号から年に1回JSITからの寄稿が掲載されることになり、初回は吉田理事長に執筆頂いた。今年中は村理事、2019年は西村編集委員が執筆予定であり、所掌は西村委員が行っている。

④ 委員長交代：2018年4月より、角田理事が委員長となる。

(2) 広報委員会：大槻理事（委員長）より以下が報告された。

① バナー広告：事務局報告で、今後も増加に向けて努力することが合意された。

② ML (Mailing List)：平均月2通強で配信できている。

③ Web管理：管理会社（福田印刷）の勧めもあり、「CPI」から「さくらインターネット」に変更し同等のサービスで、廉価である。

(3) 試験法委員会：久田理事（委員長）より以下が報告された。

① 学術年会ワークショップ：今回は「バイオ医薬品（タンパク製剤）の安全性評価法の最新動向」として、4名の演者を予定している。また、2日目に委員会を設け、次年度案などを詰めるが「免疫チェックポイント阻害剤の臨床・非臨床試験」をテーマとする方針である。

② AOP検討小委員会：資料に沿った報告があり、今年中に内外のレビューを通す予定であり、その後つぎのAOP事例の作成に当たる予定であることが報告された。また、本年5月から会員からの公募も含めて5名の新委員が加わり、串間理事が米国異動のため抜けられたことが報告された。

(4) 連携学会委員会：中村理事（委員長）より以下が報告された。

① 日本毒性学会：本園7月の第44回日本毒性学会学術年会で、合同企画として黒田

理事による教育講演が盛会裏に終了した。

② SOT/ITSS から JSIT への派遣：第 24 回 (@十和田) では Dr. Danuta Herzyk が招聘され、2 日目に特別講演が実施される。第 25 回 (@つくば) については、野原次期年会長よりの「免疫系への環境因子の影響」について講演可能な人材を募ることとなっており、人選にあたる。

③ JSIT から SOT/ITSS へ：2017 年 (@Baltimore) は齊藤理事が派遣されシンポジウムは聴衆も多く盛会裏に終了した。また Global Galley へのポスター展示も実施した。2018 年 (@San Antonio) は吉岡理事による Vaccine Safety のテーマで応募していたが採択されなかった。

(5) 将来構想 WG：黒田理事および吉岡理事（リーダー）より以下が報告された。

① 昨年の WG の設立以来メール等で、意見交換を実施した。

② 特に第 25 回で予定されている初参加、入会不要の制度によって、若手研究者などの十分な口演発表の時間や建設的な討論への勧誘によって、翌年度から入会していくことを求める制度を提案した。

4) 業務報告（案）：吉田理事長より資料に沿って報告され、承認された。

### 3. 審議事項

1) 会計：齊藤理事によりスライド資料に沿って以下が報告され審議された。

(1) 2016 年度決算案：概ね資料内容で了承された。

(2) 2016 年度監査報告：上野監事より監査報告が行われた。

→ 満場一致で決算案と監査報告が承認された。

(3) 2018 年度予算案：概ね資料内容で了承された。

→ 満場一致で予算案が承認された。

2) 人事

(1) 理事・名誉会員：運営委員会では今回は推薦がないことが報告され（大槻理事）、承認された。

(2) 評議員：事務局（大槻理事）より 3 名の候補者が報告され、満場一致で承認された。

● 福山朋季会員（496 番）一般社団法人残留農薬研究所

● 武井尚子会員（512 番）川崎医科大学衛生学

● 中西剛会員（611 番）岐阜薬科大学衛生学研究室

(3) 2019 年年会長：吉田理事長より佐藤実理事（産業医科大学）が推薦され、承認された。

3) 事業計画（案）吉田理事長より資料に沿って報告され、承認された。

4. 野原次期年会長：挨拶。2018 年 9 月 18～19 日に「つくば国際会議場」で開催されること、「徹底討論 環境と免疫」をテーマとすることが報告された。加えて、英語セッションの予定もある。加えて、討論をテーマとしているのでワークショップの後にポスター討論セッションを設け、充実した討論の場を提供したい。また、将来構想 WG からの提案で、初参加に限り年会費免除、年会参加費のみで参加でき発表も可という制度を実施予定であることが報告された。この制度の詳細について、議論され、会員番号は付与しない、よって年会賞あるいは若手優秀発表賞の対象にはならないこと、ただし総務（事務局）より mailing list あるいは翌年度の会費徴収の際に、この制度を踏まえて次年度からの入会を促す案内を出すこと、次期よりの入会のためには学術年会での討論や意見交換が最重要で、再参加への熱意を植え付けることの必要性などが確認された。

5. 佐藤次々期年会長：挨拶。会場は昨年同様の北九州国際展示場を予定している。日程は 2019 年 9 月上旬としたいがまだ確定ではない。2 年を挟んで再び北九州で実施するが、森本前年会長、第 1 内科学 田中良哉教授および呼吸器内科学 矢寺和博教授のご協力も得られるとのことで、充実した学術年会となるように努力したい。

以上；文責 事務局（大槻）

## 日本免疫毒性学会 2017年 評議員会 兼 総会

### 議事次第

1. 理事長挨拶
  2. 報告事項
    - 1) 事務局報告
      - (1) 会員動向 (2) 会費納入状況 (3) バナー現状
    - 2) 学術年会報告
      - (1) 第23回開催報告
      - (2) 第24回開催報告
      - (3) 第25回準備状況
    - 3) 委員会報告
      - (1) 学術・編集 (野原委員長)
        - i ImmunoTox Letter 編集報告
        - ii 学会賞・奨励賞選考小委員会
        - iii 日本毒性学会との連携
        - iv SOT/ITSS newsletterへのJSITからの投稿
      - (2) 広報委員会
      - (3) 試験法委員会
        - i ワークショップ
        - ii AOP小委員会
  - (4) 国際化委員会
    - i SOT/ITSSからJSIT年会へ
      - (i) 2017年/第24回
      - (ii) 2018年/第25回@つくば
    - ii JSITからSOT/ITSSへ
      - (i) 2017年/第56回@Blatimore (報告)
      - (ii) 2018年/第57回@San Antonio
  - 4) 事業報告 (吉田理事長)
 (業務年度：10月から翌年9月)
3. 審議事項
  - 1) 会計 (齊藤理事) (会計年度：4月～翌年3月)
    - (1) 2016年度決算案
    - (2) 2016年度監査報告
    - (3) 2017年度予算案
  - 2) 人事
    - (1) 評議員案
    - (2) 2019年 年会長
  - 3) 事業計画案
4. その他
5. 次期、次々期年会長あいさつ

## 事務局報告：会員動向 会費納入状況

### 会員動向

会 員	会員総数	一般会員	学生会員	賛助会員	名誉会員	住所不明による休会扱い	会費納入義務者数 一般会員/学生会員
2008.4.15	223	214	6	0	3	2	212/6
2009.4.1	232	219	7	1	5	3	217/7
2010.4.1	231	219	7	0	5	4	215/7
2011.4.1	240	224	10	0	6	6	218/10
2012.4.1	237	222	9	0	6	3	219/9
2013.4.2	221	209	6	0	6	1	208/6
2014.4.8	210	197	5	0	8	0	197/5
2015.4.7	207	190	9	0	8	0	190/9
2016.4.7	205	189	8	0	8	1	188/8
2017.4.6	202	186	6	0	10	1	191/6
2017.6.20	202	185	7	0	10	1	191/7
2017.8.21	210	190	10	0	10	1	199/10

入会・退会者	入 会	退 会		役 員	理 事	評 議 員	監 事
2008年度	25	15 (3)	( )内は 会費滞納に より退会処 理した会員 数	2008年度	21	55	2
2009年度	25	25 (5)		2009年度	21	58	2
2010年度	24	18		2010年度	22	49	2
2011年度	19	20(8)		2011年度	22	49	2
2012年度	12	26(12)		2012年度	22	54	2
2013年度	12	21(5)		2013年度	22	47	2
2014年度	15	15(7)		2014年度	22	47	2
2015年度	14	26(7)		2015年度	22	54	2
2016年度	9	14(6)	2016年度	21	47	2	
2017.8.21	16	6(3)	2017.8.21	21	47	2	

### 会費納入状況

会費納入状況	未納なし	未納あり	合 計	納入率
2008.3.31	197	23	220	89.5
2009.3.31	209	18	227	92.1
2010.3.31	206	21	227	90.7
2011.3.31	198	27	225	88.0
2012.3.31	190	36	226	84.1
2013.3.31	191	39	230	83.0
2014.3.31	174	35	209	83.3
2015.3.31	171	36	207	82.6
2016.3.31	163	33	196	83.2
2017.3.31	160	30	190	84.2
2017.8.21	134	65	199	67.3

## 事務局報告：バナー現状

### バナー現状

**日本免疫毒性学会**  
The Japanese Society of Immunotoxicology

学会概要 | ImmunoTox Letter | 学術年会 | 学会賞 奨励賞 | 誌送情報 | エッセイ | 入会案内 | リンク | 会員専用

本学会は、免疫毒性研究の育成ならびに、免疫毒性学の最新情報の提供と研究者同士の意見交換の場を広く提供し医薬品等の研究開発の発展に寄与することを目的とする

**The Japanese Society of Immunotoxicology**

■ 学術年会

**ImmunoTox Letter**  
機関誌

**新着情報**

- 2017-07-04 ImmunoTox Letter Vol.22 No.1 更新しました
- 2017-06-19 誌送情報 更新しました
- 2017-04-13 学会賞 奨励賞 選定結果等 更新しました
- 2017-04-12 誌送情報 更新しました
- 2017-03-09 誌送情報 更新しました

**次回 年会のお知らせ**      **次々回 年会のお知らせ**

第24回日本免疫毒性学会学術年会  
期日：2017年9月4日(月)～5日(火)  
会場：千葉大学新館新館1階1 階講義室

第25回日本免疫毒性学会学術年会  
期日：2018年9月18日(火)～19日(水)  
会場：つくば国際会議場

**機器ネット**

- 大塚 KUMA
- Wako

← 2008.11～掲載中

← 2009.05～  
2017.10末で掲載中止

## 学術年会報告 第23回@北九州

**第23回 日本免疫毒性学会学術年会**  
JST17  
9月6日(日) 7日(月)

**The 23<sup>rd</sup> Annual meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology**

President:  
**Prof. Yasuo Morimoto**  
University of Occupational and Environmental Health, Japan

Co-hosting meeting: The 70<sup>th</sup> Meeting of the Allergy and Immunotoxicology Committee in the Japan society of Occupational Health.  
Chairperson: Prof. **Takahiko Yoshida**  
Asahikawa Medical University

Sep.5-7/2016  
@Kitakyushu International Conference Center  
Theme:

Special Lecture: Dr. Victor J. Johnson  
Haskins Research Institute, Inc. (USA)

Master's Lecture 1  
Dr. Minoru Saitoh

Master's Lecture 2  
Dr. Kazuyoshi Saito

Master's Lecture 3  
Dr. Kazuhiko Yoteta

Symposium: Estimation of pulmonary toxicity by fine and ultrafine particles and its social practice

Workshop: Adverse outcome pathway (AOP) and immunotoxicity research

Dr. Koichi Kojima  
Haskins Research Institute, Food and Drug Safety Center

New Honorary Member  
Dr. Jun-ichi Sawada  
Pharmaceutical and Medical Devices Agency

The 6<sup>th</sup> JST Award  
Dr. Tadahiko Kosaka

The 6<sup>th</sup> JST Research Award  
Dr. Hiroyuki Kojima

The Outstanding Research Award in the 23<sup>rd</sup> JST  
Dr. Yasuhiko Yoshida

The Best Presentation Award from Students and Young Scientists in the 23<sup>rd</sup> JST  
Dr. Takashi Sasaki & Sota Fujimori

期日 2016.9.5-7  
会場 北九州国際会議場 国際会議室  
年会長 森本 泰夫  
産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学  
社会に実践する免疫毒性学  
産業医科大学 吉田 安宏

テーマ  
年会賞  
学生・若手  
優秀発表賞

同時開催  
共催

協賛  
後援

千葉大学大学院薬学研究院 薄田 健史  
千葉大学大学院薬学研究院 藤森 惣大  
第70回日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会  
北九州市、(公財)西日本産業貿易コンベンション協会、  
日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会  
日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・  
日本毒性病理学会・日本臨床環境医学会  
日本毒性学会・日本アレルギー学会

参加者は101名と産医大のスタッフが20名超であった。  
通常の製薬会社からの助成だけではなく、WEB上公開している製薬会社からの助成、北九州市からの助成など様々な助成に応募し、助成を得ることができたこと、及びコンベンション企業を入れずに学内スタッフでの運営などを行い、極力経費を削減できた。

学術年会報告 第24回@十和田

第25回@つくば  
↓  
最後に

委員会報告 学術・編集委員会

ImmunoTox Letter 発刊

(WEBにてopen access、MLにて会員への案内、WEBでは単元ごとの表示もあり)

通巻42号 (21巻2号) 2016年12月28日発刊

通巻43号 (22巻1号) 2017年7月5日発刊

学会賞・奨励賞選考小委員会

2016年12月1日～2017年2月28日 (応募期間)

選考小委員会・編成

→ 3月27日 野原委員長に選考結果報告

→ 3月31日 運営委員会にて承認 → 4月10日 メール審議にて理事会で承認

学会賞: 藤巻秀和先生

元国立環境研究所環境リスク県級センター  
研究タイトル「揮発性有機化合物に関する免疫毒性研究」  
推薦: 野原恵子理事

奨励賞: 山浦克典先生

慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター社会薬学部門  
研究タイトル「慢性掻痒性皮膚疾患に関わる皮膚免疫の免疫毒学的解析」  
推薦: 大槻剛巳理事

授賞講演

委員会報告 学術・編集委員会

**JSIT Contribution Article**

**Introduction of the Japanese Society of Immunotoxicology and collaboration with SOT Immunotoxicology Specialty Section**

I attended the 1991 annual meeting of the International Society for Immunopharmacology at Tampa, Florida. It was a chance to meet key individuals for a collaboration between JSIT (Japanese Society of Immunotoxicology) and SOT-IMTox-SS (Immunotoxicology Specialty Section). At the time I was thinking of studying abroad within NIEHS (National Institute of Environmental Health Science, NIH) and visited Dr. Michael I. Luster's laboratory to observe the institute and see the Research Triangle Park before attending the conference. At Tampa, I met Dr. Jack H. Dean (as well as Dr. Albert E. Munson and Dr. Joseph G. Vos, although my memory is a bit hazy) from SOT, while Dr. Motoyasu Ohsawa, Dr. Yasuhide Kouchi and I represented JSIT. We talked about a future collaboration between both groups in Japan and the USA. I worked at Dr. Luster's laboratory in NIEHS from 1992 to 1993. The period of Dr. Fujio Kayama's work in the laboratory overlapped mine, and Dr. Kouchi had worked before me. Dr. Sei-ichiro Hirano was working at Dr. Marjane K. Selgrade's laboratory when I visited the Research Triangle Park in 1991. We had the opportunity to attend the SOT Annual Meeting while in the USA. We also attended the IMTox-SS meeting and extended our friendship with scientists from all around the world who were working in the same field of immunotoxicology.

I returned to Japan in June of 1993 and continued my research on the immunotoxicology of environmental toxicants such as metals. My main target is arsenic and this research continues to the present day. I presented my research findings at Japanese scientific conferences that included the "Society of Toxicological Science", "Society of Hygiene," and "Society of Occupational Health and Preventive Medicine." However, since the number of researchers in the field of immunotoxicology in Japan is small, discussion at these sessions was not very active. It was within this background that

Japanese scientists interested in immunotoxicology started to prepare an immunotoxicology study group with the initiative of Dr. Ohsawa. The study group for immunotoxicology was then established in June of 1994 with Dr. Yukio Kuroawa as President. Dr. Kayama and I then attended the SOT Annual Meeting in Baltimore, Maryland in March of 1995, and Dr. Kayama introduced the foundation of JSIT at the IMTox-SS meeting. The 2nd annual meeting was held on September 29, 1995 in Tokyo. Dr. Luster was invited as a foreign speaker and lectured on "Immunotoxicological evaluation of chemicals and therapeutics: an update perspective". The 12th annual meeting during September 20-21, 2005 provided the opportunity to strengthen the collaborative exchange between JSIT and SOT-IMTox-SS, and Dr. Mitchell D. Cohen lectured on "Research trends of Immunotoxicology in the USA." The 1st volume of the "JSIT Newsletter" was issued in 1996 as the official newsletter of JSIT, which was then issued semi-yearly. From the 12th volume issued in 2008, the English pages were edited partially in the "JSIT Newsletter" in response to the maturation of the collaboration between JSIT and SOT-IMTox-SS. In this issue, Dr. Kenneth L. Hastings contributed his participation report for the 14th annual meeting of JSIT. SOT 2010 in Salt Lake City was the first annual meeting co-chaired by IMTox-SS and JSIT.

As indicated above, I introduce the origins



President of JSIT: Takahiko Yoshida M.D., Ph.D., Asahikawa Medical University

Immunotoxicology Specialty Section Fall 2016 4

SOT/ITSS newsletter へのJSITからの投稿



**Immunotoxicology Specialty Section Newsletter**  
Fall/Winter 2016 edition

**JSIT Contribution Article**

of JSIT and the collaboration between JSIT and IMTox-SS on the occasion of the start of periodical contribution to the IMTox-SS Newsletter from JSIT. JSIT is composed of nearly 300 scientists working in academia, industry, and government agencies, and holds an annual meeting around autumn. I am working as the 5th president of JSIT whose tasks include acceding and prospering the history of the organization. Although JSIT is a relatively small group, we exchange knowledge and have active discussions at a particular venue. Lastly, I hope our collaboration will develop into a long and mutually rewarding relationship.

委員会報告 広報委員会



日本語 | English | Custom Search

学会概要 | ImmunTox Letter | 学術年会 | 学会員 連絡先 | 購読情報 | エンセイ | 入会案内 | リンク | 会員専用

本学会は、免疫毒性研究の育成ならびに、免疫毒性学の最新情報の提供と研究者同士の意見交換の場を広く提供し医薬品等の研究開発の発展に寄与することを目的とする。

The Japanese Society of Immunotoxicology

学術年会 | ImmunTox Letter

最新情報

- 2017-07-04 ImmunTox Letter vol.22 No.1 発行しました
- 2017-06-19 購読情報 更新しました
- 2017-04-13 学術年会 議題 現地研修会 更新しました
- 2017-04-12 購読情報 更新しました
- 2017-03-08 購読情報 更新しました

次回 年会のお知らせ | 次々回 年会のお知らせ

第24回日本免疫毒性学会学術年会  
期日：2017年9月4日（月）～5日（火）  
会場：北原大学健康学部5棟3階会議室  
（福岡県北原市東十二番町3-5-11）  
学術年会の学術論文：2-0-3）  
学術年会：中村 聡也

第25回日本免疫毒性学会学術年会  
期日：2018年9月18日（火）～19日（水）  
会場：つくば国際会議場  
（茨城県つくば市大谷2-2-0-3）  
学術年会：野澤 聖子

2017年10月31日まで

- バナー広告：10月から1件のみ
- 2016年10月～2017年8月下旬：mailing list 28通
- WEB管理 従来「CPI」→「さくらインターネット」へ：2017年2月から  
サービス：同等、価格：廉価

## 委員会報告 試験法委員会

### 試験法ワークショップ

#### 学術年会第2日目

試験法ワークショップ「バイオ医薬品（タンパク製剤）の安全性評価法の最新動向」

WS-1	「バイオ医薬品の安全性評価法の概要と留意点」 石井明子（国立医薬品食品衛生研究所）
WS-2	「バイオ医薬品の非臨床安全性評価の考え方」 真木一茂（医薬品産業機器総合機構）
WS-3	「バイオ医薬品非臨床評価において特徴的な試験法－ヒト細胞を用いた評価法－」 久保千代美（中外製薬株式会社）
WS-4	「抗体－薬物複合体の非臨床安全性評価」 間 哲生（第一三共株式会社）

	氏名	所属
6月退任	串間 清司	アステラス製薬株式会社
	小松 弘幸	株式会社 シミックバイオリサーチセンター
新委員長	大石 巧	株式会社 ボゾリサーチセンター
	後藤 玄	株式会社 ボゾリサーチセンター
	杉本 潤一郎	株式会社 ボゾリサーチセンター
	伊藤 志保	第一三共株式会社
	大坪 靖治	株式会社 新日本科学
新委員	秦 信子	株式会社 Ig-M
新委員	福山 朋季	一般財団法人 残留農薬研究所
新委員	松村 匠悟	アステラス製薬株式会社
新委員	吉田 安宏	産業医科大学
新委員	小西 寿美恵	日本たばこ産業株式会社

2017年5月1日から任期3年間

### AOP検討小委員会

#### (1) 免疫毒性のAOP作成について

- FKBP12-FK506複合体形成による免疫抑制に関するAOP（The adverse Outcome Pathway on binding of FK506-binding protein 12(FKBP12) by calcineurin inhibitors leading to immunosuppression）として、OECD AOP Wikiに登録し、内部レビューを受けた（2017年2月～3月）。
- 内部レビューの結果を受けてAOPを修正。
- 複数のAOを設定・AOをinhibition of T-cell dependent antibody responseに変更。
- FKBP12-FK506に限定の反応・calcineurin阻害に変更、他のAOPへの汎用性を広げた。
- AOPタイトルを変更「Suppression of calcineurin activity leading to inhibition of T-cell dependent antibody response」
- 各KE（key event）の記載を整理し、それぞれの測定法についても明確に記載した。
- KE間の関係（KER）について記載漏れの部分を入力した。
- 改訂したAOPをAOP Wikiに登録（5月） <https://aopwiki.org/aops/154>
- EAGMST によるレビュー（6月）
- 内部レビューを通らなかった。
- WOEの記載及びQuantitative understandingが不十分であることが主な理由。
- 本AOPを再度修正して内部・外部レビューを通したうえで、次のAOP事例作成を開始する（3報を予定）。

#### (2) 2017年5月からのAOP検討小委員会メンバーについて（左表）

## 委員会報告 連携学会委員会

### 日本毒性学科との連携

第44回日本毒性学会学術年会@パシフィコ横浜

2017年7月10～12日

年会長 熊谷嘉人（筑波大学医学医療系 環境生物学分野）

教育講演 2 7月10日（月） 13:30 - 14:30 第2会場

#### 日本免疫毒性学会合同企画

EL2 アジュバントによる免疫活性化のメカニズム－免疫制御因子としてのデンジャーシグナル－

○黒田 悦史<sup>1,2</sup>、石井 健<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>大阪大学免疫学フロンティア研究センター ワクチン学研究室、

<sup>2</sup>医薬基盤・健康・栄養研究所 アジュバント開発プロジェクト

座長：中村 和希（北里大学獣医学部毒性学研究室）

### SOT/ITSSからJSIT年会へ

2017（第24回@十和田）

#### 学術年会第2日目

#### ② 特別講演 2

“Immunotoxicity Assessment of Biopharmaceuticals”

Danuta Herzyk (Merck Research Laboratories)

2018（第25回@つくば）

### JSITからSOTへ

2017年/第56回@Blattimore) 齊藤先生・派遣

時間	講演者	講演題目
9:30	J. Bussiere, Amgen Inc., Thousand Oaks, CA	The Skin As a Metabolic and Immune-Competent Organ: Implications for Pharmaceutical Development and Safety Assessment.
9:30	J. Bussiere, Amgen Inc., Thousand Oaks, CA	Introduction to the Skin as a Target for Immune-Mediated Drug Hypersensitivity (What Are the Issues We're Seeing in the Clinic/Patients?)
9:35	M.H.W. Kamijyo, Japan	The Nonrigid Idiopathic Adverse Drug Reaction Model to Understand Cutaneous Immunology and Screening Methods.
10:07	A. Skornik, Amgen Inc., South San Francisco, CA	Drug Metabolism and Immune Responses in the Skin.
10:39	J. Uehara, University of Toronto, Toronto, ON, Canada	Towards the Development of a Novel T Cell Priming Assay to Screen for Skin Sensitization Potential.
11:11	D. Nisic, University of Liverpool, Liverpool, United Kingdom. Sponsor: J. Bussiere	Molecular Interaction between Drugs and HLA/TCR in Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis.
11:43	S. Hwang, National Yang-Ming University, Taipei, Taiwan. Sponsor: J. Saito	Implications for Predictive Clinical Safety.

Global GalleyでのJSITのポスター展示



2018年/第76回@San Antonio) 非採択

## 将来構想WGからの意見

### 学会の発表やシンポジウムに関するコメント

#### アカデミックの立場からの意見

- ・ 現在固定化しつつあるテーマを広げ、炎症性疾患にも(免疫活性化)注目する。特に代謝性疾患(肥満、内分泌)、神経免疫など。具体的には環境因子の生態影響という切り口が本学会にフィットしているかも。
- ・ 薬剤師の臨床研究(特異体質薬物毒性の評価)を取り入れる(企業側のご意見と共通)。
- ・ エコチル調査をベースとした化学物質胎児期曝露研究(アレルギーやアトピーなど)に関する発表。
- ・ シンポジウムのテーマとして、腸管免疫やガン免疫など。

#### 企業側からのご意見

- ・ 免疫毒性評価のテーマとして、核酸医薬、抗体医薬、ガンワクチン、再生医療、ナノ医薬品、ワクチンアジュバントなど。
- ・ 臨床試験に関する情報収集の機会。臨床研究者の発表や非臨床と臨床の間のトランスレーショナルな議論の機会。
- ・ 特異体質薬物毒性の評価(アカデミックのご意見と共通)。
- ・ 薬事担当や薬理研究者も視野に置いた企画作り。

#### 若手会員の取り込みに関する意見(アカデミック、企業共通)

- ・ シンポジストのラボの若手にも来てもらう。PIと若手の両方の学会勧誘。(1年目は年会費免除で参加費のみ→加入時にネックになるのは年会費)
- ・ 学生は口頭発表が出来ることを強調。
- ・ 以前、来ていたが最近非参加の会員への再度の声掛け。
- ・ 他の学会との合同研究会(すでに毒性学会や、衛生学会、産業衛生学会では行われている?---その他、薬物動態学会、再生医療学会など)
- ・ 若手をターゲットとした座談会や若手主体のシンポジウム企画(若手が集まってからの企画?)。

#### その他アイデア

- ・ 学会の活動を浸透させるための宣伝活動。(チラシ作り、HPでの宣伝活動強化)
- ・ アカデミアと企業からの参加者のバランスを保つ企画づくり。
- ・ 学生の参加者に対する助成金。
- ・ 企業展示に対する積極的な対応。(重要!!)
- ・ 学会に参加してもらい、発表してもらおうことが大事。(これも重要)

#### その後の活動状況

- ・ AIと免疫毒性?
- ・ がん免疫、アレルギー免疫両方、炎症性疾患(原因と治療戦略)、再生医療と免疫毒性、免疫性の希少疾患、
- ・ エコチル調査をベースとした研究(アレルギー、アトピーなど)について、北海道大学環境健康科学教育研究センターの先生へ声掛け(エコチルは全国調査なので他の地区でも声掛けを広げる必要があります)
- ・ H大薬学部とS大薬学部の先生にも声掛け。反応はとてよかったですとのこと。H大薬学部の他の先生にも声かけ予定。
- ・ I研究所、O大薬学部、E研究所、H大薬学部、S大学薬学部、その他関連したお仕事をされている研究者。
- ・ O大薬学部の炎症をやられている先生に声かけ。ただ研究内容が「毒性」って感じではないという印象を持たれている様子。
- ・ I研究所の抗体医薬と核酸医薬の先生に声かけ、お二人とも興味を持っており、特に学生の発表の機会が嬉しいとのこと。ただ共同研究ベースの研究が多いため発表内容は慎重にしたいとのこと。

#### その他ご意見

- ・ 学生の参加、特に若手研究者や学生発表に対する表彰制度の継続・強化
- ・ エコチル絡みで生殖免疫など
- ・ **日本毒性学会の部会制度との関係。**

## 業務報告(2016年10月から2017年9月)-1-

### 1. はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2013年に第20回記念の学術大会を経て、あらたな歩みを進めています。この間、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能して参りました。今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実するため、国内の関連学会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会(SOT-ITSS)との交流も継続していきます。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業について取組んでいきます。

学会の持続的発展を可能とするため、経済的側面として運営委員会の回数の削減等による支出の縮減を図るとともに、特に世代交代と人材養成を図るために、役員や各種委員会への若手会員の登用をすすめる体制の強化をはかっています。

会計年度は4月から翌年3月の期間としています。また、補充役員の任期に關しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

### 2. 事業計画(2016年10月から2017年9月まで)

#### 1) 2017年の理事会の開催

2017年9月3日、十和田市、十和田市市民交流プラザ「トワール」にて開催の予定です。

#### 2) 2017年の総会・評議委員会の開催

2017年9月4日、十和田市、北里大学獣医学部B棟1階講義室にて開催の予定です。

#### 3) 第24回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第24回日本免疫毒性学会学術年會を、2016年9月4-5日に、十和田市、北里大学獣医学部B棟1階講義室にて、年会長：中村和事理事(北里大学獣医学部毒性学研究室教授)のもとに開催の準備が進められています。年會テーマは「免疫亢進」と「免疫抑制」の新たな考え方です。URL：<http://jsit2017.jp/>

#### 4) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しました。  
21巻第2号(通巻42号、2016年12月号)  
22巻第1号(通巻43号、2017年6月号)

#### 5) 学会賞及び奨励賞の授与

第7回(2017年)学会賞は藤巻 秀和先生(元国立環境研究所環境リスク研究センター)「揮発性有機化合物に関する免疫毒性研究」に、奨励賞は山浦 克典先生(慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター社会薬学部)「慢性痒痒皮膚疾患に関わる皮膚免疫の毒性学的解析」に授与しました。

#### 6) 第25回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定

第25回日本免疫毒性学会学術年會を、つくば市、つくば国際会議場にて、野原忠子理事(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)を年会長として開催される予定です。期日は、2018年9月18~19日、会場は、つくば国際会議場、大会議室です。年會テーマは未定です。

#### 7) 第56回米国トキシコロジー学会年會への派遣

2017年3月13-17日に米国Baltimore, Marylandにて開催された、第56回米国トキシコロジー学会年會に、本学会とSOT-ISSの共同企画として齋藤理事から提案されたテーマ、The Skin As A Metabolic And Immune-Competent Organ: Implications for Pharmaceutical Development and Safety Assessmentがシンポジウムに採択され、座長・演者として齋藤理事が本学会から派遣されました。

#### 8) 日本毒性学会との連携企画の開催

2017年7月10~12日、パシフィック横浜会議センターで開催された、第44回日本毒性学会学術年會において、日本毒性学会との連携による免疫毒性をテーマとした教育講演を企画し、黒田理事が講師を務めました。

## 業務報告（2016年10月から2017年9月）-2-

### 3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の内容で活動しました。

#### 1) 事務局

(総務担当：大槻理事)

・ 会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助各会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務

・ 名簿作成

・ 理事選出方法の検討

(会計担当：齋藤理事)

・ 一般会計及び基金会計に関する事務

・ 予算書及び予算書の作成

#### 2) 運営委員会（委員長：吉田理事長）

2016年12月、2017年6月に開催し、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図りました。

#### 3) 学術・編集委員会（委員長：野原理事）

ImmunoTox Letter の編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。米国 SOT-ITSSから、News letterへのJSITメンバーからの年に1回の定期的な投稿を打診され受けました。初回投稿は吉田理事長が行いました。第7回（2017年）学会賞ならびに奨励賞の授賞のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼しました。

#### 4) 広報委員会（委員長：大槻理事）

継続して、学会ホームページをリニューアルしアクセスも可能となりました。今後とも定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めます。また、バナー広告企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。

#### 5) 試験法委員会（委員長：久田理事）

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第24回学術年会（2017年9月に、十和田市、北里大学獣医学部B棟1階講義室）でワークショップを開催しました。

また、2014年から開始しましたJaCVAMの皮膚感作性試験代替資料編集委員会（委員長：筒井理事）は、2016年12月20日付でh-CLATに関する評価報告書が公開された後、小島名誉会員が委員長となりECVAMやOECDで検討中の代替法について引き続き評価を行っています。

同じくJaCVAMによるMITA アッセイの評価委員として、井上理事が本学会から参加しています。

#### ・ AOP検討小委員会

JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた、免疫抑制に関するAOP (Adverse Outcome Pathway) 作成について、AOP検討小委員会が作成したAOP事例（カルシニューリン阻害によるT細胞依存性抗体産生抑制）が2016年9月にAPOWikiに掲載され、その内容も資料として配布されました。現在、OECDによる内部レビューの途中であり、続いて外部レビューを受ける予定となっております。5月からはAOP検討小委員会に新メンバーを迎えて、他の機序による免疫抑制のAOP事例を作成して行きます。

#### 6) 連携学会委員会（委員長：中村理事）

第24回学術年会事務局及びSOT-ITSSの補助により、第24回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、年会長とSOT-ITSSの協議のうえDr. Danuta Herzyk (Merck Research Laboratories)を招聘する予定です。

また、本学会とSOT-ITSSとの交流事業に位置付けられています共同学術企画提案を継続するため、2018年3月11-15日の第57回米国トキシコロジー学会年会 (San Antonio) に共同シンポジウム「Current status and challenges in the development of safety potent vaccines」を提案しましたが、採択されませんでした。

#### 7) 将来構想WG（座長：黒田・吉岡理事）

黒田、吉岡両理事を中心として編成された将来構想WGにおいて、若手会員の新規参加者を増やすための方策について検討が進められています。

#### 4. 予算

##### 1) 2016年度通常会計報告（2016年4月1日～2017年3月31日）

別紙のとおり

##### 2) 基金会計

別紙のとおり。基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能な、しかし、予算措置を必要とする案件に備えるものです。

## 会計

### 決算(案) 2016年度

### 2016年4月から 2017年3月

## 日本免疫毒性学会 2016年度 会計報告(案)

(単位円)

#### 通常会計

収入				備考
科目	予算	決算		
前年度(2015年度)繰越金	735,686	735,686		会計管理分319,899円、事務局管理分415,787円
2016年度会費	1,566,000	1,458,000		内訳(一般:158人×8千円、過去年度のべ22人×8千円、学生のべ9人×2千円)
ホームページ・バナー広告	120,000	120,000		2社×2期×3万円:120,000円
JACVAM委託費(2016年度分)	500,000	500,000		JaCVAM・小島先生より学会に委託(AOP作成費)
雑収入	400	15		銀行預金利子15円
<b>収入合計</b>	<b>2,922,086</b>	<b>2,813,701</b>		

支出				備考
科目	予算	決算		
第24回学術年会(青森)運営費	600,000	600,000		2017年度年会長:中村先生(青森)
第56回SOT年会派遣助成	0	0		2017年3月メーランド州ボルチモア(被派遣者:齋藤)
会議費	300,000	189,676		会議費(運営委員会を年3回から2回に、第63回の旅費はAOP内容討議のためJACVAM委託費から)
通信費	70,000	67,726		切手・葉書、レターパック、電話
News Letter 製作費	0	0		Vol. 20, No. 2より乗者委託せず発行
事務費	150,000	180,590		名誉会員記念品、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ作成・維持費	300,000	224,887		ホームページ更新、サーバーレンタル料
JACVAM事業費	500,000	500,477		AOP会議用旅費、委員謝礼クオカード購入、振込手数料、第63回運営委員会旅費、USBメモリ等
予備費	1,002,087	1,050,345		次年度(2017年度)への繰越
<b>支出合計</b>	<b>2,922,086</b>	<b>2,813,701</b>		

#### 基金会計

収入				備考
科目	予算	決算		
前年度(2015年度)繰越金	1,123,773	1,123,773		
第23回学術年会(北九州)からの寄付	0	413,846		第23回学術年会運営費の余剰分寄付
雑収入	150	86		銀行預金利子(定期預金)
<b>収入合計</b>	<b>1,123,923</b>	<b>1,537,705</b>		

支出				備考
科目	予算	決算		
学会賞、奨励賞 副賞	80,000	80,000		学会賞(小坂先生):5万円×1、奨励賞(小島先生):3万円×1
予備費	1,043,923	1,457,705		次年度(2017年度)への繰越見込み
<b>支出合計</b>	<b>1,123,923</b>	<b>1,537,705</b>		

会計

<監査報告>

決算(案)  
2016年度

2016年4月から  
2017年3月

  
 2016年度日本免疫毒性学会  
 会計監査報告書

2016年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしましたので、ご報告いたします。

2017年 7月15日  
上野光一

  


2017年 7月7日  
高野裕久

  


会計

予算(案)  
2018年度

2018年4月から  
2019年3月

日本免疫毒性学会 2018年度 予算案

通常会計

収入		(単位円)
科目	予算	備考
前年度(2017年度)繰越金見込み	1,208,360	
2018年度会費	1,458,000	内訳(一般会員会費納入義務者数202名、2017年4月現在、2016年度実績1,458,000円)
ホームページ・バナー広告	60,000	1社×2期×3万円:60,000円
2018年度分JACVAM委託費	500,000	JaCVAM小島先生より(AOP作成費)
雑収入	15	2016年度実績は、銀行預金利子15円
収入合計	3,226,375	

支出

科目	予算	備考
第26回学術年会(未定)運営費	600,000	2019年度年会長-未定
第58回SOT年会派遣助成	100,000	2019年3月メリーランド州ボルチモア
会議費	400,000	会議費(委員交通費、2016年度実績 189,676円+216,660円)
通信費	70,000	切手・葉書、宅配便、電話(2016年度実績 67,726円)
事務費	150,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等(2016年度実績 180,590円)
ホームページ維持費	250,000	2016年度実績 224,887円
JACVAM事業費	500,000	2016年度実績 500,477円
予備費	1,156,375	次年度(2019年度)への繰越見込み
支出合計	3,226,375	

基金会計

収入		
科目	予算	備考
前年度(2017年度)繰越金見込み	1,377,791	
雑収入	86	銀行預金利息(2016年度実績 86円)
収入合計	1,377,877	

支出

科目	予算	備考
学会賞、奨励賞、副賞	110,000	学会賞:5万円、奨励賞:3万円×2
予備費	1,267,877	次年度(2019年度)への繰越見込み
支出合計	1,377,877	

## 人 事

1) 理事、名誉会員：推薦なし

2) 評議員 (案)

- (1) **福山朋季** 会員番号 496  
一般財団法人 残留農薬研究所  
推薦者：小坂忠司、久田 茂
- (2) **武井直子** 会員番号 512  
川崎医科大学衛生学  
推薦者：黒田悦史、西村泰光
- (3) **中西 剛** 会員番号 611  
岐阜薬科大学 衛生学研究室  
推薦者：姫野誠一郎、大槻剛巳

3) 2019年 年会長 (案)

**佐藤 実** 理事 会員番号 624  
産業医科大学 産業保健学部 成人老年看護学

## 業務計画 (2017年10月から2018年9月) -1-

### 1. はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2013年に第20回記念の学術大会を経て、あらたな歩みを進めています。この間、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能して参りました。今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実するため、国内の関連学会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会 (SOT-ITSS) との交流を継続していきます。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業について取組んでいきます。

学会の持続的発展を可能とするため、経済的安定性を高めるとともに、役員や各種委員会への若手会員の登用を一層すすめたいと思います。学会員の皆様からも、多くの方への入会の勧めをお願いいたします。

会計報告は、4月から翌年3月の期間で行っています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

### 2. 事業計画 (2017年10月から2018年9月まで)

#### 1) 2018年の理事会の開催

2018年9月17日、つくば市にて開催の予定です。

#### 2) 2018年の総会・評議委員会の開催

2018年9月18日、つくば市、つくば国際会議場にて開催の予定です。

#### 3) 第25回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第25回日本免疫毒性学会学術年会を、2018年9月18～19日、つくば市、つくば国際会議場にて、年会長：野原恵子理事 (国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター) のもとに開催の準備が進められています。

#### 4) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

22巻第2号 (通巻43号、2017年12月号)

23巻第1号 (通巻44号、2018年6月号)

#### 5) 学会賞及び奨励賞の選考

第8回 (2018年) 学会賞・奨励賞の選考を行います。

#### 6) 第26回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定

第26回日本免疫毒性学会学術年会 (2019年) の年会長を、佐藤 実先生 (産業医科大学産業保健学部成人・老年看護学講座教授) が担当されることになりました。開催地は北九州市の予定です。

#### 7) 第57回米国トキシコロジー学会年会への派遣

2018年3月11-15日の第57回米国トキシコロジー学会年会 (San Antonio) での共同企画集会は採択されなかったためありません。世界の関連学会の活動をポスター展示するGlobal Galleryに、参画する予定です。

#### 8) 日本毒性学会との連携企画の開催

日本毒性学会との連携により、免疫毒性をテーマとした学術等を企画します。

### 3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定しています。

#### 1) 事務局

(総務担当：大槻理事)

・会員の異動、会員 (名誉・一般・学生・賛助各会員・休会員) 数の推移と会費納入状況の把握、自動退会 (会費未納退会) の整理等の事務

・名簿作成

・理事選出方法の検討

(会計担当：斎藤理事)

・一般会計及び基金会計に関する事務

・予算書及び予算書の作成

## 業務計画（2017年10月から2018年9月）-2-

### 2) 運営委員会（委員長：吉田理事長）

2017年12月、2018年6月に開催し、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図ります。

### 3) 学術・編集委員会（委員長：野原理事）

ImmunoTox Letter の編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第8回（2018年）学会賞ならびに奨励賞の授賞のため、学会賞等選考小

委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

新委員長の選出：2018年4月より新委員長（角田理事就任予定）のもと、新たな体制で活動の予定です。

### 4) 広報委員会（委員長：大槻理事）

継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実にも努めます。また、バナー広告企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。

### 5) 試験法委員会（委員長：久田理事）

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第25回学術年会（2018年9月18～19日に、つくば市、つくば国際会議場）でワークショップを開催します。

また、2014年から開始しましたJaCVAMの皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会（委員長：小島名誉会員）への参画を継続し、ECVAMやOECDで検討中の代替法について引き続き評価を行います。同じくJaCVAM によるMITA アッセイの評価委員として、継続して井上理事が本学会から参画します。

JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた、免疫抑制に関するAOP (Adverse Outcome Pathway) 作成について、AOP検討小委員会にて継続して作業を行います。

### 6) 連携学会委員会（委員長：中村理事）

第25回学術年会事務局及びSOT-ITSSの補助により、第25回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、年会長とSOT-ITSSの協議のうえ講師を招聘する予定です。

また、本学会とSOT-ITSSとの交流事業に位置付けられている共同シンポジウム等を継続するために、2019年3月の第58回米国トキシコロジー学会年会（Baltimore）での採択を目指し企画提案を行います。担当者及びテーマは未定です。

### 7) 将来構想WG（座長：黒田・吉岡理事）

学会の持続的発展を可能とするため、特に、若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討を進めます。

### 4. 予算

#### 1) 2018年度通常会計予算（2018年4月1日～2019年3月31日）

別紙のとおり

#### 2) 基金会計

別紙のとおり。

基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能な、しかし、予算措置を必要とする案件に備えるものです。

日程：2018年9月18日（火）～19日（水）  
会場：つくば国際会議場  
年会長：野原恵子（国立環境研究所）

**徹底討論！  
環境と免疫**

**第25回日本免疫毒性学会学術年会**

## 第25回学術年会

日程：2018年9月18日（火）～19日（水）

会場：つくば国際会議場

つくばエクスプレスつくば駅より徒歩10分

年会長：野原恵子（国立環境研究所）

事務局長：鈴木武博（国立環境研究所）

免疫毒性について徹底的に討論したい！

討論時間の確保

シンポジウムテーマ：腸内細菌と免疫疾患（予定）

新制度の導入：

初参加に限り年会費免除、年会参加費のみで参加、発表も可、という制度を実施の予定